

九州森林管理局のシカ被害対策の取組状況

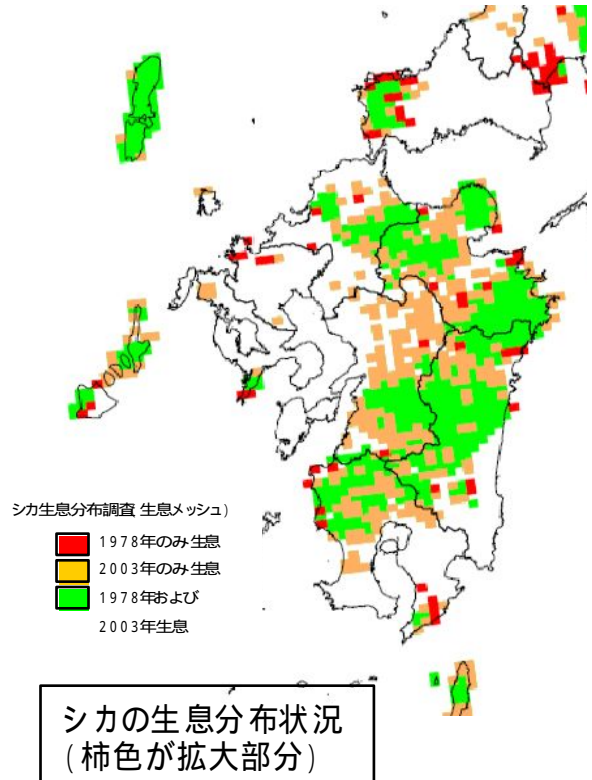
九州のシカ被害と対応の現状

1 シカの生息状況等

生息域は1978年から2003年の25年で1.5倍以上に拡大。全国的には1.7倍以上に拡大

生息頭数は、九州全域で27万頭以上（県数値の計）で、適正頭数（同、3.6万頭程度）の7倍以上。

一方、捕獲は6.6万頭程度（H21）



2 被害状況

希少種を含む野生動植物の生育地の著しい減少・劣化・消滅が進行し、生物多様性は危機的な状況。

ほぼ九州全域において農林作物への深刻な被害が継続。シカの圧力は高コスト林業や資源価値の逸失による林業再生、山村の基盤を毀損。



森林が破壊(熊本県白髪岳)



ヒノキが倒伏。人工林とは思えない状況

シカによる森林への被害状況

(参考)

- 生物多様性等の変質・喪失状況 -



下層植生が消失、上木も剥皮被害



柵を張っても食害を受けるスギ造林地



下層植生や枝葉の採食により
1.5m程度以下の植物は皆無
(赤線がシカライン)



ヒノキの剥皮。経済価値が毀損



きれいな花が咲く毒草(ヤマシャクヤク
とバイケイ)のみが占有

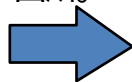


林道周辺。緑に覆われているが、シカの嫌いな草本類ばかり



熊本・宮崎県境 白鳥山(1997年)

左右は同一箇所。



この10年で下層植生が喪失



同左(2009年)

九州以外の地域におけるシカ被害の状況



著しく過剰なニホンジカ密度(三重県大台ヶ原)



防鹿柵内のみに残る林床植生(北海道)



林床植生の消失(高知県さおりガ原)



林床植生の消失(神奈川県弁当沢)



防鹿柵内のみで繁茂するササ(神奈川県)

今後の対応方向

1 対応方向

現在のシカの森林に対する過剰な圧力を大幅に軽減しなければ、「生物多様性の保全」と「林業の再生」は不可能との考えの下、22年度から新たにシカの個体数調整方策も含んだ総合的なシカ対策の構築に貢献。

2 取組の柱

従来から行っている森林植生・造林地の保護のための柵の設置に加え、以下を重点的に実施

- (1) シカへの対応方策の検討ための調査・実証事業（野生鳥獣との共存の森林整備事業）
霧島地域、屋久島地域等をモデル地域として、以下を検討、実証。（H21～25）
被害実態の把握
シカの生息・分布状況、行動パターン等の調査
保護すべき箇所の特定制と対応策（植生保護柵の設置等）
効果的・効率的な個体数調整方策 等

- (2) シカの効果的・効率的捕獲技術の開発（林野庁重点指示課題）
宮崎県霧島等において、生息状況や行動パターン等を把握しつつ、くくり罠、捕獲柵、広域誘導捕獲柵等を用いた効果的・効率的な捕獲方法の開発・実証を実施。
（H22～26 森林技術センター（宮崎市））

- (3) シカの捕獲
シカによる森林への圧力の軽減を行う観点から、署等においてシカの捕獲を積極的に実施。（H22～）

- (4) 地域との連携
シカ被害対策の推進に当たっては、シカの保護管理の権限を所掌する環境省、県、市町村及びシカの生態等に関するノウハウを有する森林総合研究所等研究機関、捕獲を実施している猟友会等と連携。
また、地域全体での取組を促進する観点から、情報・知見の交換や国有林のフィールドとしての提供等を推進。

平成 22年度の取組状況

1 シカ被害の分析能力の向上

天然林や人工林の生物多様性の低下・毀損度については、十分に把握されていないのが現状。

このため、シカの森林への圧力がどの程度かかっているのかを把握する有効なツールとして、シカが好む、あるいは好まない草本類、木本類等に関する植物図鑑を作成。

これを用いることにより、天然林や人工林への食圧や生息数の多寡の状況を把握。



シカの好き嫌い植物図鑑

2 シカの行動パターンなどの把握

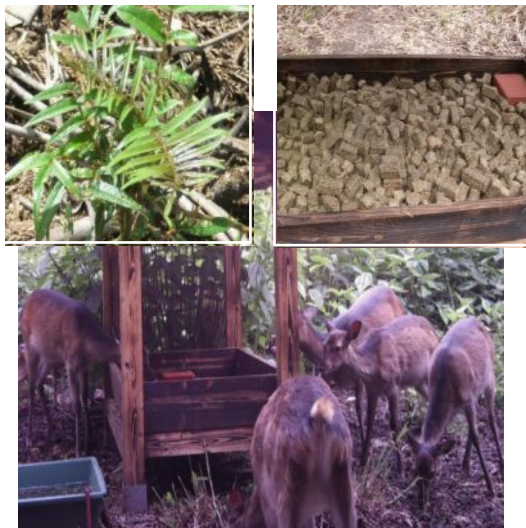
本年度は、シカの効果的、効率的捕獲方法の構築に不可欠な情報であるシカの行動パターン、生態等を重点的に把握。

シカ道の入り込み状況の調査

GPSテレメトリー(首輪)によりシカの移動状況を分、時間、日、月、年単位で把握
餌や餌等へのシカの反応をカメラ等で調査



シカ道を歩き、入り込み状況を調査



給餌試験(左上カラスザンショウ、右上人工飼料と岩塩(茶色部分)、左下給水器(水色部分))

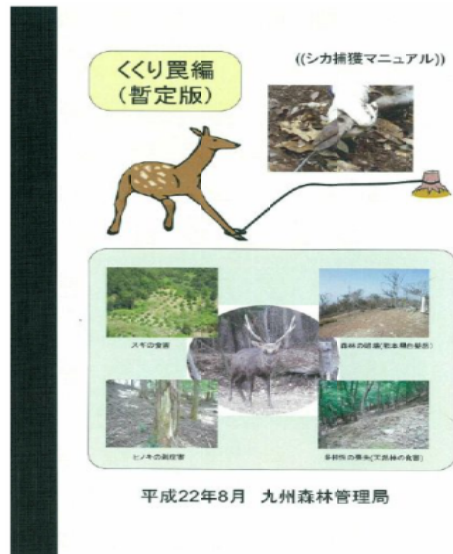


シカへのGPS装置の装着状況

3 シカの捕獲マニュアルの作成

シカの効果的、効率的な捕獲を推進するためには、まずは、これまで蓄積された詳細な技術、情報等を取りまとめ、これを活用する必要があることから、くくり罠に関する技術を有する職員及び外部の技術者にヒアリング等を行い、「くくり罠による捕獲マニュアル(暫定版)」を作成。

今後、より科学的分析を加え、今年度中を目途に第一次マニュアルを作成の予定。



シカ捕獲マニュアル(くくり罠編)

(記載項目)

- 1 シカの生態、食性と行動パターン
- 2 シカによる森林被害の態様
 - ・食圧の状況と生息数の多寡
- 3 くくり罠による捕獲
 - ・捕獲の基本的考え方と心構え
 - ・有効なくくり罠
 - ・捕獲効率を上げる工夫等
- 4 その他

4 職員によるシカの捕獲

くくり罠の捕獲マニュアル(暫定版)等を活用しつつ、シカの捕獲を推進。本年度から狩猟期においても捕獲を実施。

また、その結果については、局署等で情報を交換・共有。

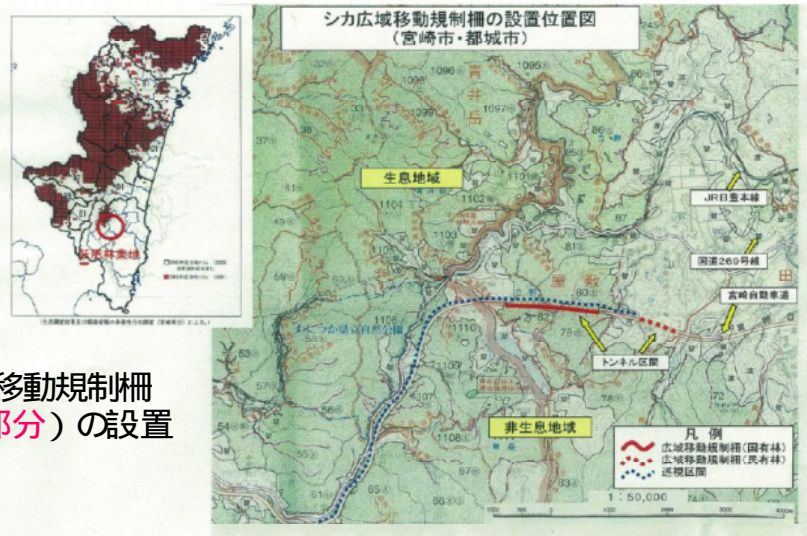


くくり罠の研修会(屋久島署)

6 シカの生息域の拡大防止(シカ・ウォール)

シカの非生息地域等への侵入による森林の生物多様性や農林業への被害を防止するため、シカの広域移動を規制する柵(シカ・ウォール)を設置。

本年度は、シカ生息密度が高くなってきた宮崎市青井岳地域から宮崎県南部の飫肥、鰐塚山地域への侵入路を遮断するため、宮崎県と連携を図りつつ、広域移動規制柵(シカ・ウォール)を3km程度設置予定。



シカの広域移動規制柵
(右図の赤線部分) の設置

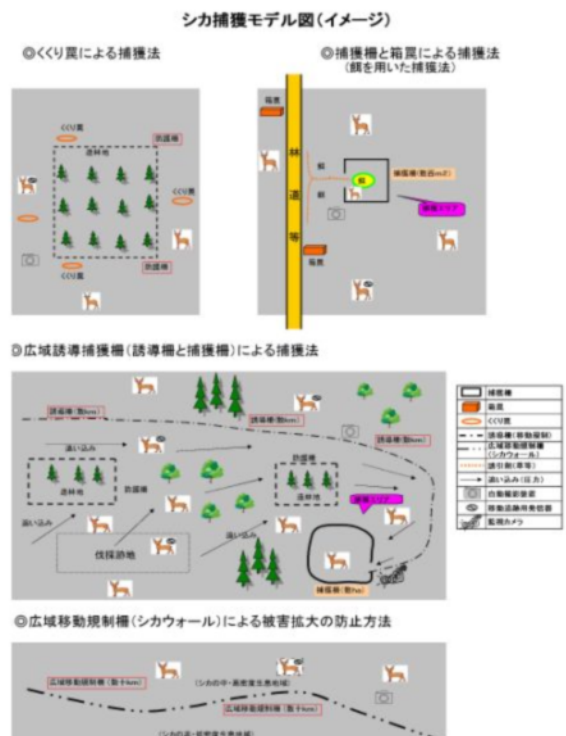
7 捕獲技術の開発に向けた取組

来年度からの本格的な試験に向け、本年度は各種の罠へのシカの反応、罠の併用方法と効果、捕獲柵へのシカの誘導方法、ドアの仕様等について把握、検討。

(検討する捕獲手法等)

- ・くくり罠
- ・箱罠
- ・捕獲柵
- ・広域誘導捕獲柵
- ・広域行動規制柵
- ・その他

シカの捕獲方法に
関するイメージ



8 屋久島世界遺産地域等における取組

屋久島世界遺産地域科学委員会の下にヤクシカ対策のワーキンググループを設置し、科学的知見に基づく被害対策を検討・推進。

また、世界遺産のクライテリアに該当する屋久島西部の垂直分布地域の植生を保護するため、垂直方向（間断的）に植生の保護柵を設置の予定。



屋久島世界遺産地域科学委員会



垂直植生保護柵設置等の取組
(青色の箇所)

9 地域との連携と発信

- ・ 被害の酷い地域（霧島、熊本南部、宮崎北部）においては、県、市町村、猟友会等の参画を得て、局主催のシカ対策検討会議を開催。
- ・ シカ被害の現状と対策に関するシンポジウムを本年2月に熊本市で開催。今後、熊本市（10月）、小林市（2月）、屋久島町（2月）で開催予定。
- ・ 森林環境教育の一環として、「シカと森林のカード」を作成し、シカによる生態系への影響を普及。
- ・ 取組状況等については、マスコミや様々な媒体を通じて発信。



シカに関するシンポジウム
(22年2月熊本市)



局主催のシカ対策検討会議(人吉市、高千穂町、湧水町)



「シカと森林のカード」を使った教職員を対象とした森林環境教育

平成22年10月15日
九州森林管理局
屋久島森林管理署
屋久島森林環境保全センター

ヤクシカ被害対策の取組状況について

屋久島においては、ヤクシカの生息頭数の増加に伴いヤクシカの過採食による生物多様性や森林生態系へ過剰な圧力がかかっており、特世界遺産に指定される要因となった植生の垂直分布がみられる西部地域においては、森林の生物多様性や生態系への被害が顕著にみられるようになってきている。

このような被害状況に鑑みて、森林の生物多様性や生態系の保全、農林業への被害軽減等の観点から、民有林とも連携しながら、植生の保護・再生方策、シカの個体数調整方策等を含むヤクシカの総合的な被害対策の検討、実施を推進する。

なお、この取組に当たっては、関係行政機関や屋久島町、猟友会等地域と連携し、被害対策の体制づくりも推進しつつ、効果的な対策を講じていくこととする。

記

1 シカ被害への対応方策の検討・実証事業（野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業(委託調査事業)）

(1) 西部林道地域(世界遺産地域。非常に高い生息密度で被害がひどい地域)

21年度に引き続き調査を実施。ヤクシカに係る被害状況及び生息状況調査、植生の保護・再生方策の検討、移動状況(GPSテレメトリー)調査、捕獲手法及び個体数調整の検討(観察等)等を実施

(2) 南部地域(遺産地域及びその周辺。被害が少なく希少種が生育する地域)

ヤクシカに係る被害状況及び生息状況の調査、移動状況(GPSテレメトリー)調査の検討、文献調査等を実施

【別添資料参照】

2 森林整備事業を通じた取組

(1) 職員による有害鳥獣による捕獲(くくり罠を用いた捕獲)

(2) シカ防護ネットを活用した囲い罠・追い込み罠による捕獲試験等の実施

愛子嶽国有林205む2林小班内の造林予定箇所(伐採跡地)でシカネット(ステン

レス入り、スカート方式)で周囲を囲うとともに、追い込み罠を設置しての捕獲試験とヤクシカの生息状況及び植生の調査を実施

(3) 植生保護柵の設置

西・南部地域において、野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業と連携を図りながら、垂直保護柵等の設置(予定)

3 屋久島町、猟友会とのシカ対策推進協定締結による被害対策の推進

ヤクシカによる農林業被害及び生態系被害の防止を促進することを目的に、屋久島森林管理署、屋久島町、上屋久猟友会、屋久町猟友会との間で「シカ対策推進協定」を締結し、国有林内でのヤクシカの被害対策の推進に取り組む

4 「屋久島東部地域におけるヤクシカ対策モデル事業」(愛子プロジェクト(仮称))と連携した捕獲試験の検討

愛子プロジェクト(仮称)と連携した取組を検討

屋久島におけるヤクシカ被害の状況



林床にはシカの不嗜好種のみ残る
(西部地域)



シカにより下層植生が全面に食害を受ける
(西部地域)



マテバシイ等のヒコバエがシカに採食
され更新が出来ない(西部地域)



スギ人工林がシカによる皮剥ぎ被害
(北東部地域)



高層湿原(花之江河)でシカによる
食害の状況



人慣れしたシカの状況
(高層湿原(花之江河))

